

キャリア支援室における就職支援教育について

大井 浩*

キャリア支援室では個別の学生を対象にエントリーシート作成、面接練習などの就職支援活動を実施しているが、これとは別に集合教育の形態で就職支援教育も実施している。ここでは2016年度に実施されたこれらの教育について、日程と概要、準備段階も含めたこれまでの経緯、授業内容の詳細を具体的に記述した。また、当校で実施している就職フェア（合同企業説明会）についてもこれまでの経緯と参加企業選定の状況についてまとめた。さらには現状の課題である求人企業の急増対策について感じているところを述べた。

Keywords : 就職支援, 集合教育, 合同企業説明会.

1. はじめに

キャリア支援室においては様々な就職支援活動を実施している。近年は求人企業が急激に増加しているのでその窓口としての業務が急増している。従来は当校から企業を訪問して求人をお願いしていた時期もあったが、現在は来校される企業の対応に時間を割かれ、そのような時間がほとんど取れないのが実情である。もちろん最も重要視しているのは個々の学生からの相談、質問、依頼への対応である。具体的には説明会、工場見学以前の企業選定から内定後の対応まで様々な相談が持ち込まれている。

一方、キャリア支援室では求人企業の資料、データをはじめ多くのデータをまとめ保管している。また、必要に応じて書類を準備し、報告する業務も多数行っている。

このような日常業務とは別に事前に年間を通じて計画され集合教育として実施されている就職支援業務がある。学生全員参加の就職支援教育の実施、希望学生向け（自由参加）の講習会等の実施、就職フェア等のイベント実施もキャリア支援室の重要な業務であり、4年にわたり筆者が主として担当することになった。さらには当初は4名体制であったこともあり、専門課程のキャリア形成論、デュアルシステム型生産技術科の職業社会論、キャリア形成論の通常授業も担当していた。その後、常勤嘱託職員1名、非常勤嘱託職員2名の3名体制に減少したため、通常授業は非常勤の先生に委ねているが、他の授業、行事、講習会については主として筆者が計画段階から担当している。

ここではイベントを含む多数の学生を対象とした支援活動を就職支援教育としてまとめ、全体像と実施の経緯を報告する。また、求人企業が急増している現状について感じているところも併せて記述した。

2. 就職支援教育の概略

学生目線を見た就職支援教育の概略を2016年4月から2017年3月についてまとめると以下ようになる。就職支援とは直接関係無いものの、重要な情報収集活動、全体把握のために必要と思われる内容も含めている。

<Ⅰ期・Ⅱ期（1年生・3年生の3月～9月）>

- 4月 入学時の説明、ガイダンス
- 5月 1回目の授業に向けて就職支援企業（リクナビ、マイナビ等）からの情報収集、配布資料確認他
- 5月～6月 企業が夏季に実施するインターンシップへの参加希望学生の募集、企業との調整
- 6月～7月 各学科1回目の授業（専門課程・応用課程）就職支援企業へのPC登録他
- 8月 企業が実施するインターンシップへの参加（応用課程・専門課程、希望学生）

<Ⅲ期・Ⅳ期（1年生・3年生の10月～3月）>

- 9月下旬～10月下旬 就職支援企業のまとめ情報収集
- 10月～2月 業界研究、エントリーシート記入練習、工場見学、リクルースタイル講習、面接練習他（専門課程・応用課程、各科）
- 10月～3月、企業が冬季に実施するインターンシップへの参加申し込み・参加（希望者）
- 10月～2月 ジョブカード作成支援・個別面談他（応用課程）
- 10月12日 適性検査の実施（応用課程）
- 10月26日 模擬能力試験実施（専門課程、応用課程）
- 11月16日 応用課程 2回目授業 最新の就職情報提供、就職ワークブック配布他
- 11月30日 専門課程 2回目授業 最新の就職情報提供他
- 12月7日 適性検査結果返却・説明（応用課程）
- 12月7日 リクルースタイル講習（応用課程、自由参加）
- 12月14日 応用課程 3回目授業 模擬能力試験結果返却・解説他
- 1月～2月 ジョブカード作成支援・個別面談他（専門課程）
- 1月5日 専門課程 3回目授業 就職ワークブック配布他
- 1月10日 専門課程 4回目授業 模擬能力試験結果返却・解説他
- 1月11日 就職支援企業が実施するエントリーシート記入法講習会（専門課程、・応用課程、自由参加）
- 1月12日 適性検査実施（専門課程）

* 学務課キャリア支援室

- 1月18日 リクルートスタイル講習（専門課程，自由参加）
- 1月25日 就職用写真撮影（専門課程・応用課程，自由参加）
- 2月21日 適性検査結果返却・説明（専門課程）
- 3月～ 企業説明会開始．企業説明会の日程を学生に周知
- 3月～ エントリーシート記入法他（学生個別対応）
- 2月末～3月7日 就職フェアに関する学生への説明
- 3月8日 就職フェア1回目（学内合同企業説明会）
- <Ⅴ期～Ⅷ期（2年生・4年生の4月～3月）>**
- 4月～ 面接練習（学生個別対応）
- 4月13日 就職フェア2回目（学内合同企業説明会）
- 6月1日 就職フェア3回目（学内合同企業説明会）
- 6月 応用課程進学者確定
- 5月～8月 多くの学生が就職先を最終決定し，就職活動を終える．8月末で90%が就職活動完了．
- 7月～ 未内定者に対するヒアリング
- 7月20日 ハローワークが実施する未就職者向け面接講習（自由参加）
- 9月～ 未内定者に対する重点的サポート
- 10月～11月（5回，18時限） キャリア形成概論の授業（専門課程2科）
- 1月～2月（5回，18時限） キャリア形成概論の授業（専門課程2科）
- 3月15日 卒業式
未内定者が有れば卒業後もサポート
離転職希望の卒業生への対応他

以上が主としてキャリア支援室が関与する就職支援教育の全体像であるが，各学科で実施されている多くの就職支援教育が具体的に記載されていない点については，ご容赦をお願いしたい。

3. 就職支援教育の詳細

ここでは上記概要に沿って具体的に内容を説明する。
<入学前の問い合わせに対する対応>

まず，入学前の高校生，保護者からの問い合わせ等に対応している．電話による問い合わせだけでなく実際に来られる保護者の方も多し．高校生本人よりも保護者の方が就職についての関心は高いようである．

<Ⅰ期・Ⅱ期（1年生・3年生の3月～9月）>

4月の入学時・ガイダンスで簡単な説明が行われているが，学生にとっては学校になじむこと，学科の授業になじむことが最優勢であるので，就職について関心を持ってキャリア支援室を訪れる学生は少ない．本来は早くから関心を持っていただきたいところであるが，学科の専門的授業が優先されるのはやむを得ないところである．

6月に各学科で実施する第1回目の授業に向け，5月にはリクナビ，マイナビ等の就職支援企業と情報交換を行い，最新の情報を頂戴し，併せて学生に配布する資料を決定する．また，各科に授業日時の調整とネットワーク使用環境の確保をお願いする．

企業・団体等から夏季休暇中に実施されるインターンシップの案内を周知するのもこの時期である．当校

学生の場合，空き時間が少なく，夏季休暇も短いので参加希望者は少ない．しかし，就職希望の企業が実施するインターンシップの場合は，たとえ授業が実施されている期間であっても参加できるよう学科で配慮されているし，キャリア支援室でも事務手続きをサポートし，応援している．

1回目の授業では，就職スケジュールの概要，夏季休暇中にすべき自分自身のキャリアの見直しについて説明する．また，今後3月までに追加すべき専門分野の自己PR，アルバイトでのネタ探しなどを解説する．さらに，エントリーシート，Webテスト，適性検査などへの対応を簡単に説明し，その後PCを用いて就職支援企業への登録を完了する．応用課程の学生にとっては「ついにその時期が来たか」の感触であるが，専門課程の学生にとっては「まだ入学したばかりなのに」の感覚であり，学生にとっては適切な時期での刺激になっていると考えている．

また，この時期に高校だけでなく，中学校，小学校も含めてキャリアを見直している学生はエントリーシートが充実しているだけでなく，たとえ大幅な変更が必要になったとしても容易に対応可能であった．

<Ⅲ期・Ⅳ期（1年生・3年生の10月～3月）>

応用課程とデュアルシステムでは10月に各学科において適性検査の実施をお願いしている．その準備として7月には問題と採点の事務手続きが必要である．また，テープレコーダによる進行があるとはいえ実施前に担任への具体的進め方の説明も実施している．実施1週間後の水曜日には欠席者向け再試験をキャリア支援室でまとめて実施し，直ちに荷造りし，採点業者に発送する必要がある．採点結果の返却まで1か月程度を要する．学生への採点結果の返却と説明も各科をお願いしているが，キャリア支援室に郵送されるので学科との日程調整も必要である．

専門課程の適性検査は1月実施なので，10月に事務手続きを準備し，実施をお願いして再試験，発送後，1か月後の返却となる．

また，10月には応用課程，専門課程，デュアルシステムに能力試験（業者テスト）を実施する．この試験も各科をお願いして実施しているが，7月には問題と採点の事務手続きが必要である．また，実施前に担任への具体的進め方の説明が必要である．こちらはテープは無いので，業者が準備したマニュアルを当校で使用するために修正し，説明しなければならない．実施1週間後の水曜日には欠席者向け再試験をキャリア支援室でまとめて実施し，直ちに採点業者に発送する．学生への採点結果の返却と解説はキャリア支援室で実施している．応用課程には12月の3回目の授業で，専門課程には1月の4回目の授業で実施している．応用課程と専門課程で問題が異なるが，質問が出た場合には，少なくとも非言語分野の全問に答えられるよう，授業前に準備している．

11月中旬には応用課程2回目授業を学科ごとに実施し，12月中旬には応用課程3回目授業を学科ごとに実施した．

専門課程については11月下旬に2回目の授業を視聴覚室で4科合同で実施し，3回目と4回目の授業は1

月上旬と中旬に学科ごとに実施した。

この授業の内容について以下に説明する。

まず、今年度の状況と次年度の予測として新しい情報を説明している。例年 10 月頃には就職支援企業がその年のまとめの報告会を実施しており、その中に次年度予測も含まれているので、授業内容に反映している。また、授業日以降に募集されているインターンシップの計画と申し込み方法も説明する。

次に例年作成し、全員に配布している「就職活動ワークブック」を利用し、企業選定、会社説明会等から応募、試験、内定報告までの一連の流れと提出すべき当校の書類について具体的に説明する。ワークブックの原稿は 8 月までに作成している。記載内容は通常のマニュアル本と同じ基本的な部分と、当校独自の書類、手続き部分で構成されている。授業で利用するには詳細に書きすぎているきらいはあるが、学生の状況に応じて再度見直しできるように構成している。

また、当校で準備している自由参加可能なエントリーシート記入の講習会、リクルートスタイルの講習会、リクルート用写真撮影、工場見学会の計画についても説明する。

その後いよいよ本題の企業選択、説明会、エントリーシート、学科試験・適性検査、面接試験についての詳細授業になる。ここでも常識的、基本的内容をワークブックを教材として説明している。しかし、当校の学生は真面目であるが、経験が少ない学生が多い。実際一人当たりの応募企業数は非常に少なく、面接も苦手な学生が多い。そんな学生にとっては説明会での質問の仕方から練習させる必要がある。まず、事前に質問内容は決めておき、手を挙げて、当てられたら立って、学校名と名前を名乗って、「どうぞおかけください」と言われなければ座らないで質問を始める。筆者が良くある回答をして、「ありがとうございました」で終わるまでの一連の動作をクラス単位の授業の時に本番形式で 2～3 人にさせている。

履歴書・エントリーシートの書き方についても個別対応の経験を生かして、ワークブックには書けないような初歩から説明している。履歴書部分について入学・卒業など同じ校名 2 行の左右の並びが大きくなりすぎないことなどである。

また「賞・罰」についても記載するよう注意している。多くの学生が最初は「なし」と書いているが個別面談をすると 5 人に 1 人くらいは記載できる程度の「賞」を受けている。「応募企業と関係がない」のが書かない理由のようである。

自己 PR、趣味特技などについても基本的な解説の後、それぞれの内容は良いが全体として偏り過ぎる学生が多いことを伝えている。例えば高校 3 年間または中学から 6 年間のクラブ活動について全く記載がない、料理の趣味や楽しい趣味が有るのに書かず専門だけに偏った退屈な人のように見える例などを紹介している。ネットなどでは関係ないことを書くのは好ましくないとの注意が有るようだが、これからずっと一緒に仕事をする仲間として誤解を招かない程度に記入するよう指導している。

また、面接やコミュニケーションに自信がない学生

は、アルバイトや地域活動ネタは必ず記載するよう指導している。面接では緊張してうまくできなかったが、慣れれば通用すると良いように理解していただける可能性が有るからである。

電話の掛け方についてはワークブックにも具体的に記載しているが、状況が異なる場合には、キャリア支援室で練習可能な旨を希望者の個別練習をしている。

面接についても基本的な説明をした後、個別練習の状況を説明している。実際の個別の面接練習では内容についてはそれなりに考えて真面目に文章を暗記しようとする学生が多い。もっと練習しますとはしっかり暗記し、詰まらずスムーズに言えるようにすることと勘違いし、自分の言いたい内容を伝えようとする気持ちが感じられない学生が多く困惑している。授業ではそのような実情を紹介し、たとうまく伝わらなくても、せめて伝えようとする意欲、努力くらい伝えるように指導している。

もう一つ重要なこととして、エントリーシートと面接試験との大きな違いを説明している。エントリーシートは準備時間が十分取れるので間違いは修正し、不足部分は書き加えて提出しなければならない。これに対し、面接試験は対話なので不足部分は当然発生する。間違いは絶対にダメで、何もかも丁寧に説明しようとする学生が多く、結果として聴いている面接官にわかりにくい説明をする学生が多い実情も紹介している。

その後 2 月までにはジョブカードを利用した各科での個別指導、説明会への準備も整い、3 月以降合同企業説明会、企業個別の説明会に学生は参加し、学生自身の就職活動が本格的に開始される。そして卒業後に勤務する企業に内定を得て、就職活動はおおむね一段落する。

<授業形態について>

キャリア支援室で実施する授業については従来 3 科または 4 科合同で視聴覚教室で実施されていた。しかし、実際に授業を担当してみると学生との距離が遠く、個々の反応がわかりにくく、質疑も思うようにできないので、マイクで話すだけの一方通行の授業になりがちだった。キャリア形成概論の授業をお願いした非常勤の先生からも同様の希望が有り、筆者の力量だけが原因ではないと考え、可能な限り少人数の学科単位で通常教室で実施できるよう各科の先生にお願いし、実施形態を見直した。その結果、視聴覚教室での合同授業は時間調整が困難な専門課程の年 1 回(合計 2 時限)に減少し、他の授業は通常は 1 科単位で、困難な場合でも 2 科合同で通常教室で実施できるようにした。授業内容も対話型の授業を多く取り入れる方向で修正した。

私見ではあるが、キャリア支援室で日常的に実施している個々の学生へのサポートについては、本来集合教育を補完すべきものと考えている。その意味でまず全員参加の授業で基本事項をマスターする。次に自由参加の講習会で苦手な部分、不足部分を補完する。最後に個別の対応で学生が作成した応募書類、準備した面接内容を具体的に確認修正するのが望ましいと考えている。

4. 就職フェアの状況

当校で実施している就職フェアについては、卒業時就職者の50～70%が参加企業に就職していることもあり、当校にとっても求人企業にとっても非常に重要なイベントになっている。

実施回数、実施時期については社会状況を踏まえて前年の10月頃計画している。従来は3月、4月に2回実施し、参加企業数は合計90社以内で推移していた。その後、2014年には参加希望の企業が大幅に増加したが、2014年でも年間2回、各回50社が限界で多くの企業様に参加をお断りすることとなった。当初は電源容量の制約から1回当たり50社が限界とされていた。実際、企業によっては使用電力の大きいプロジェクターを使用し、面談中に電源ブレーカーを落とすトラブルが発生していたためである。

2015年は8月から試験が解禁との取り決めがあったので、3月から7月にかけて4回実施し、参加企業の増加をはかった。しかし、2016年の試験開始は6月となったため、3月9日、4月13日、6月1日の3回とした。



就職フェアの現状

まず、1回当たりの参加企業数について徐々に増加すべく検討した。電源については200V電源から配電盤2台の分岐で確保できるようになった。また、消費電力については企業1社当たりノートパソコン1台の使用を徹底し、制限した。その結果、2015年は56社、2016年は64社まで参加できることを確認した。

参加企業の選定についても見直しを行った。参加企業枠以上に多くの企業から申し込みが殺到する状況では、従来のように先着順ではなく、何らかの基準に則り参加企業を選定する必要が生じた。そこで以下の要件を基準とし、申込企業の優先順位を決定した。

- ① 過去の卒業生の就職先企業、採用数。
- ② 過去の就職フェアでの面談学生数。
- ③ 学科からの推薦。
- ④ 新規参加企業。

新規企業の参加が全くできなくなる状況を防止するため、④を追加することにより一定割合の新規企業の

参加を可能にした。そのため、いつものお得意様企業の参加がその年に限ってできなくなるという問題も発生したが、参加企業数に限りがある以上ご容赦をお願いするしか無い状況になっている。

2017年はせっかく申し込みをいただきながら、残念ながらお断りした企業が100社以上に達することになった。これらの選に漏れた企業様への対応として、個別の学内説明会開催を6月中旬までに1回準備可能とした。

5. 新規求人企業の増加について

この数年での最も大きな変化は求人企業数の増加である。当校への求人企業数は2013年度は577社であったが、2016年度は1230社とこの3年で約2倍になっている。これ以外にもリクナビ、マイナビ等当校に求人されていない企業へも学生はエントリーし就職しているため、応募対象の企業はさらに多い。

求人企業数が増加して学生が最も困っているのは企業選択の問題である。うれしい悲鳴というべきかもしれないが多すぎて悩ましいのが問題である。多くの学生が「どこかい企業」の紹介を希望するが、さすがに本人の判断にゆだねることになる。企業選択の手法は多数紹介されているが、企業研究の時間があまり取れない学生にとっては卒業生の状況など限られた情報に頼ることになっている。

キャリア支援室の職員にとっても急増する新規求人企業の対応、情報収集に追いつけていないのが実情であり、学科の指導教官も同様ではないかと思われる。本来は求人企業全社の情報を準備し、企業勉強会等を実施するのが望ましいが、マンパワーの点で無理と思われる。筆者も若干の情報収集を試みたが、全企業対象は不可能と思われた。私見ではあるが、むしろ少量の情報でも収集できる範囲で持ち寄り、企業研究を開始するほうが現実的で望ましいと考える。

6. まとめ

筆者が4年間担当していた、キャリア支援室で実施している集合教育を前提とした就職支援活動について以下のようにまとめた。

- 1) 2016年度に実施した日程と概要について列記した。
- 2) 詳細内容について準備も含め具体的に記載した。
- 3) 視聴覚室で実施していた合同授業については、科との調整により1クラスまたは2クラスの対話重視の授業に可能な限り変更した。
- 4) 就職フェアについては参加企業数を増加するとともに参加企業の選定方法を整備した。
- 5) 新規求人企業の増加に対し、若干の私見を述べた。

今後、学生向けの就職支援を担当される教職員の皆様に何らかのお役にたてば幸いです。

(2017年07月10日提出)